

トピックス

第 150 回大会が終わって



第 150 回大会実行委員長 岡田 民雄*

Tamio Okada*

私は昭和 7 年より始まり戦時中も中断することもなかったこの大会の第 150 回という記念すべき時に、実行委員長をさせていただけたこと、大変光栄なことと感謝致しております。

2006 年 4 月 21 日に関東支部長に選任された時には、この大会が 150 回になることは気が付いていませんでした。支部の会議等重ねていく内に、支部長は大会の実行委員長をすること、しかも我々が担当するその大会は 150 回という大きな節目になることもよく理解でき、私自身も何か特徴のある企画ができないものかと考えました。

今思い出してみると、それぞれの企画、アイデアは、会議中での提案もありましたが、ほとんどは、会議の終了後の懇親会のワイワイ、ガヤガヤの席で出たような気がします。一番最初に出た案は日本鑄造協会と一緒にやったらどうか、でした。私は早速、加藤会長、角田専務理事をお訪ねし賛同を得、理事会で承認をいただいた上返事することでした。更に、鑄造関係団体に協賛をお願いしてはどうかの案も出、私は本部理事会にて了解をいただいた後、各団体をお訪ねし、金銭的な負担は何もおかけしない、会員と同じ費用で参加できるので、会員の方々に積極的に参加するように働きかけていただきたいとお願いをいたしました。

その結果、素形材センター、日本ダイカスト協会、日本非鉄金属鑄物協会、日本工業炉協会、日本鑄造機械工業会、日本ダイカストマシン工業会、日本ダイカスト工業協同組合、耐火物協会、耐火物技術協会、日本鑄鍛鋼会の 10 の団体より協賛していただくことになりました。

次に行事の日を追って、特徴的なことを書かせていただきます。

5 月 18 日、技術講習会は、「将来の自動車に求められる鑄造技術」がテーマでした。その最後に特別講演として、JFE ホールディングスの数土文夫社長に、「技術と経営」と題して講演していただくことを受けていただいておりますが最終的にはご都合が悪くなり、JFE グループである日本鑄造株式会社の菅昌徹朗社長に代理でご講演していただきました。

同日、子供鑄物教室(秋津小、5 年生)は通例でしたが、

鑄物体験教室は埼玉鑄物技能士会の指導のもと、千葉黎明高校生により実際に鑄物を鑄込み体験されたことは初めての企画でした。

5 月 19 日

展示会

一般のカタログ展示とは別に 1 月に「日本ものづくり展」が上野の国立科学博物館で開催されました。そこに展示された鑄造関係の製品を特別展示し、経産省・前田素形材室長にも自分の講演前に見ていただきました。

懇親会

日本鑄造協会と共同開催ということで、加藤喜久雄会長、堀江 皓会長の 2 人の挨拶を堀江会長が代表して挨拶、また経産省の前田宏泰室長に挨拶いただきましたが、文部科学省の管轄である当学会では、初めてのことでありました。

また、ゲストスピーカとして、どなたに来ていただくかが話題になった時、私は強く、張 富士夫様を推薦致しました。受けていただけるかどうかはわかりませんでしたが、張会長は、久能カントリー倶楽部の理事でありますので、お願いすることは直接できると思っていました。張様はトヨタ自動車の会長であり、また自動車工業会の会長でもあるからです。鑄物は自動車工業と非常に関係が深いことは誰でもが知っていることでもあり、私はこの記念すべき大会でお話をさせていただくのに最も相応しい方だと思っていました。結果は鑄物に関係深い内容でお話しされ、大変好評で、参加者にはご満足いただけたことと思っております。後日、懇親会に参加されなかった方から、張会長の講演内容を聞かれたこともあり、文章化をし、この「鑄造工学」誌に掲載できればと準備しております。

中国、フランスの参加

韓国は毎回、学会として参加されていますが、今回、初めて中国鑄造学会より郭副会長(5 月 20 日「中国の鑄造産業の歴史と現状」との題で特別講演)他 2 名が初めて参加されました。また、鑄造協会の関係でフランスのミッションが約 40 名様程参加されたことも初めてのことであります。

挨拶の時間

懇親会は、参加者の交流の場、長い挨拶は禁物ということで、関係者で、どう全体を短くするか、盛んに議論を致しました。私も一分以内スピーチを心掛け社員に聞いても



図1 張トヨタ自動車会長のご挨拶



図2 高校生の鑄物体験教室

らい事前に練習をしておきましたが、本番になり壇上より会場を見渡した時、あまりにも多くの人々が居り、またトップバッターでもあっただけにざわめきが静まっていませんでした。私はこの状況で、早口でしゃべってしまっは、聞き取り難いだろうと思い、とっさに、少しゆっくり、そして間を取り挨拶をさせていただきました。時間を計っていた社員がおり、「1分20秒でした」と言われました。幸い、加藤会長、堀江会長、前田室長、張会長、鏡割りと中江先生の乾杯までの全時間で、27分か28分だと思っています。いずれにしても目標の30分以内に納まったことは良かったと思っています。

アトラクションとしてフラダンス

懇親会はお互いに話し合う場だと思います。そのために、太鼓など大きな音がするものは声が聞こえなくなり、また歌の場合は聞いていないと失礼になると考えると、バックミュージック的なものが良いだろうとフラダンスになりました。後でDVDを見ますと、フランスのご婦人方が大変熱心に見ておられる様子でした。

5月21日

懇親ゴルフに小林浩美プロ参加

私が以前総支配人をしており、現常任理事をしている、



図4 中国鑄造学会、韓国鑄造工学会の代表者とともに大会会場にて



図4 日本鑄造工学会会長、日本鑄造協会会長と懇親ゴルフ会場にて

久能カントリー倶楽部が休日にもかかわらずオープンしていただき、42人の参加でしたが、貸切りにしてもらいました。小林プロはこの久能の特別アドバイザーをしている関係で、私は同伴プレーをお願いし易い立場にありました。3人を一組にし、全組が一ホールずつ小林プロと一緒に廻れるように企画しました。その間おしゃべりをしたり、ワンポイントレッスンを受けて楽しんでいただけました。私はプレーをせずカメラマンに徹し、参加者全員の集合写真、組の4人と小林プロとのツーショット、それにグリーン上の写真を皆様にお渡ししました。「写真を額に入れた」「もらったサインを神棚に上げた」などと喜んでいただけ、私も非常にうれしい思いをしています。

まだまだ記したいこと、反省点、また後始末等多くのことがあります。多くの皆様のご協力をいただき無事大会が終了できたこと、実行委員長として、大変有難く、安堵の気持ちで一杯です。ありがとうございました。